

市の助言内容と申出者の意見

市の助言	申出者の意見
1 外装計画について	
<p>ガラスを採用した外装計画では、ガラスの色や反射率、内部のつくり方及び使われ方、照明計画等によって見え方が変化します。「品格ある通りに調和する整然とした外装計画」を達成するために、引き続き、これらの点について丁寧に検討を進められることを期待します。</p>	<p>建築外皮性能を確保した上、ガラスの透明感と反射性を意識した計画となるよう検討します。また、照明計画含め品格ある通りに調和する外装計画を継続検討します。</p>
2 新たなスカイラインの形成について	
<p>「駅前通りの街並みと調和しながら活力を象徴するスカイラインを形成」を実現するためには、道路空間から基壇部上にある程度ボリュームのあるみどりが見えてくることが重要と考えられます。設計を進めるにあたっては、みどりが所々抜け落ちている印象とならないよう、バランスのとれた植栽の配置を検討いただくとともに、これらのみどりを支えることに適した植栽基盤となるよう検討をしてください。また、基壇部上のテラスの快適性を高めるため、積雪や風の影響について、引き続き、検討するよう努めてください。</p>	<p>テラス利用者の視点だけではなく、道路空間からの視点場も重視し、新たな有機的なスカイラインの形成を寄与できる植栽ボリューム、配置を検討します。また、テラスの活用の仕方に合わせて、札幌特有の自然環境を踏まえた安全性と快適性を配慮した計画を検討します。</p>
3 北二条通側の顔づくりについて	
<p>(1) 北海道庁のみどり、隣地のみどり、本計画のみどりによって構成されるみどりの軸が歩行者に感じられるように、植栽の配置と隣地境界の「きわ」のつくり方に何らかの工夫がなされるよう検討してください。</p>	<p>道庁からのみどりの軸を歩行者に感じられるよう、植栽の配置を継続検討します。南側のセットバックを活かした、隣地建物との繋がり方も検討します。</p>
<p>(2) 駐車場の出入口は、開口部が大きく印象が強くなるため、道路から見える内部の部分についても見え方を検討するようにしてください。</p>	<p>床、壁、軒天の素材を丁寧に選びつつ、照明演出も含め、裏感を与えられない設えを検討します。</p>

4 駅前通と札幌駅前通地下歩行空間を立体的につなぐ広場空間等について		
(1)	立体的につながれた空間が、誰もが自由に使える広場空間として認識できるよう、人の動線や目線に何かしらの工夫をなされるよう努めてください。	雰囲気統一感を持たす内装設計を検討します。必要に応じて、適切なサインの掲示なども含め、検討します。
(3)	札幌駅前通地下歩行空間との接続空間の設えによって、広場空間の印象が変わると考えられます。より魅力的な広場空間とするために、接続空間の柱や天井面の設えについても、引き続き検討されるよう努めてください。	将来の広場空間の利活用の仕方も含め、定められた基準に準じつつ、接続空間の柱、天井面の設えの工夫をまちづくり会社とともに継続検討します。
(4)	札幌駅前通地下歩行空間と地上部をつなぐ出入口は、不特定多数の人にとってわかりやすい設えとなるよう、引き続き、検討されることを期待します。	サイン計画なども工夫しながら、わかりやすい設えとなるよう、継続検討します。
(5)	広場空間で生まれる賑わいを維持していくために、広場空間を適切に管理・運営していくことが重要です。適切に管理が行き届くよう管理・運営体制が構築されることを期待します。	適切な管理・運営を継続することで、チカホと一体となった賑わい創出を目指します。
5 サイン計画について		
(1)	サインの設置にあたっては、必要な位置に必要な情報を集約して設置することで、誰にでもわかりやすいサイン計画となるよう、引き続き検討していきましょう。	助言を踏まえ、わかりやすいサイン計画となるよう、引き続き検討します。
(2)	無秩序なテナントサインの掲出は、景観の阻害につながる可能性があります。一定のルールに基づいて掲出されるような仕組みの構築について、今後積極的に検討されることを期待します。	品格のある駅前通りに相応しいサイン掲出を目指し継続検討していきます。
6 記憶の継承について		
	景観は、目に見えるものだけでなく、それが形作られた背景や人々がまちに抱く印象など、幅広い視点でとらえることが重要です。現在敷地内にある建築物は、長らくこの地に存在し、多くの市民から愛着を持たれていると考えられることから、その記憶や歴史を継承していくための方策を引き続き検討し、実施されることを期待します。	可能な方策の有無含め、継続検討します。